

# TABLE FOR TWOかわら版 補足資料 ～Vol.16 ルワンダ視察報告～

2013年12月発行

## TFTプログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTABLE FOR TWOプログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆さまにお届けするための補足資料です。貴団体内でのコミュニケーションやPRにご活用いただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒宜しくお願い致します。

## <補足資料Vol.16をお送りするにあたって>

2013年9月にTFT事務局の小林が、ルワンダ共和国のマヤンゲ村を訪問しました。マヤンゲ村では、8つの幼稚園でお粥とゆで卵の給食が提供されています。今回の補足資料では、給食プログラムの実施状況とあわせて、携帯電話の普及など、町や村の変化についてもご報告します。

- ・ 2ページ目以降は掲示板への掲出や、卓上POPとしてご利用いただけます
- ・ かわら版本紙、補足資料ともに、TFTのウェブサイトからダウンロードいただけます

## <日本でのTFTプログラムの実施状況>

計622の団体で実施中（2013年12月13日現在）

| 内訳              | 団体数 | 比率   |
|-----------------|-----|------|
| 1. 企業(社員食堂、自販機) | 303 | 49%  |
| 2. 学校           | 109 | 18%  |
| 3. 店舗・小売食品      | 130 | 21%  |
| 4. 官公庁・公的機関     | 26  | 4%   |
| 5. 病院           | 16  | 3%   |
| 6. その他          | 38  | 6%   |
| 合計              | 622 | 100% |

## <これまでに寄せられたご寄付>

\* TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

|               |             |
|---------------|-------------|
| 2007年         | 5万6,737食分   |
| 2008年         | 59万7,652食分  |
| 2009年         | 212万2,627食分 |
| 2010年         | 381万5,507食分 |
| 2011年         | 579万8,653食分 |
| 2012年         | 593万2,197食分 |
| 2013年（11月末まで） | 575万2,915食分 |

⇒合計2,407万6,288食分

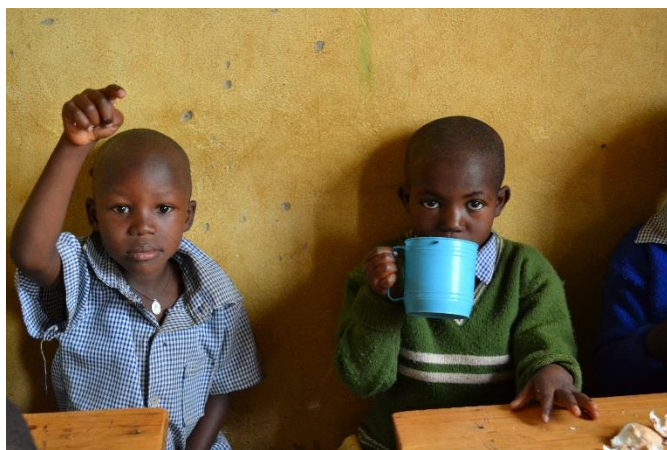
マヤンゲ村は南緯2度ですが、標高が高く、過ごしやすい気候です



マヤンゲ村は南緯2度 — そう聞くと、日本の真夏のような気候が続くと想像されるかもしれませんが、標高が高いこともあり、とても過ごやすく快適な気候です。

ルワンダは「千の丘の国」と呼ばれますが、首都キガリからマヤンゲ村に向かう途中も、幾つもの山や丘が続いています。

年間を通じて日中の気温は27度くらいまで上がり、朝夕は15度くらいまで下がります。そのため、幼稚園に通う子どもたちの服装はまちまちで、半袖シャツの子もいれば、長袖セーターの子もいます。



約3万人が暮らすマヤンゲ村には、17の幼稚園があります



マヤンゲ村は、ルワンダの首都キガリから、南西に車で1時間ほどの地域です。地域内には17の幼稚園があります。そのうち11ヶ所は地域住民が中心となって設立・運営されており、6ヶ所は私立の幼稚園です。朝からお昼ごろまでの半日、3歳から6歳までの子どもたちが通っています。

ルワンダ政府は幼児教育を推進しているものの、十分な予算を確保できていません。マヤンゲ村の場合、地域住民が運営する幼稚園では、毎月1,000ルワンダ・フラン（約200円）を園児の家庭から集めて、園舎の維持、教諭の給与、給食費の一部などに充てています。







お粥の原料となる  
SOSOMAや砂糖は、  
鍵のかかる倉庫に  
保管されています。

マヤンゲ村ではTABLE FOR TWOの支援により、8つの幼稚園で給食が提供されています。子どもたちは10時ごろにお粥を食べます。このお粥はSOSOMAという雑穀と砂糖が入っており、温かく甘みのある味に仕立てられています。



大きな鍋で、お粥を作ります



お粥に加えて、週に2回は  
ゆで卵が提供されています

## 週に2回のゆで卵は子どもたちに大人気です



幼稚園に通う子どもたちの母親からは、「自宅から離れた場所にある畑で農作業をする時間が確保できて助かっている」、「子どもたちが英語で歌ったり、お祈りするようになったのを誇らしく感じる」といった声が寄せられています。

マヤンゲ村では、自宅の庭先で鶏を飼っている家庭もありますが、卵を村内の市場で販売して現金収入を得るケースが多く、家庭では卵を食べられない子がほとんどです。

ゆで卵は子どもたちに大人気で、ほとんどの子がお粥よりも先に卵を食べていました。白身を全部食べてから、最後に黄身を食べるのがルワンダ流です。





ルワンダの首都キガリの中心部は整然としており、建設中の建物も多く並んでいます。ルワンダは、“アフリカのシンガポール”を目指し、IT整備・普及に注力しています。その姿勢を象徴するように、2013年に発行された500フラン札には、パソコンに向かう少年少女の姿が描かれています。

ルワンダの携帯電話保有率は60%を超え、街中には携帯電話の代理店が並んでいます。使用料はプリペイド・カード方式のため、現金収入が少なくても、携帯電話を持つことができる仕組みになっています。

郊外への道の両脇には、携帯電話キャリア会社のイメージカラーやロゴがペイントされた建物が並び、建物自体がカラフルな広告となっています。



## TABLE FOR TWOスタッフより



マヤンゲ村の子どもたちは、とてもシャイで、カメラを向けたり、話しかけると、はにかんだまま、うつむいてしまう子が多かったのですが、給食の時間は、とても明るい表情で、お粥や卵を食べていたのが印象に残っています。「食」のもつ力の大きさを改めて感じました。

地域住民が中心となって設立した幼稚園の園長は、周囲からの人望の厚い女性でした。「子どもたちが楽しく過ごせる環境をつくり、小学校で学ぶ準備をしっかりとできるように頑張りたい」と語ってくれ、とても心強く感じました。(TFT事務局:小林)

